

# fff サンフレンズだより

2010年度 事業報告・決算

2011年度 事業計画・予算

No. 60 2011. 5. 31  
発行：社会福祉法人 サンフレンズ  
編集：法人本部 事務局  
〒167-0023  
杉並区上井草3-33-10  
03-3394-9833



社会福祉法人サンフレンズの2010年度事業報告案と決算案、2011年度事業計画案と予算案は、評議員会を経て理事会で承認されました。

紙面の都合により、事業報告および事業計画は法人全体のものを抜粋して掲載します。また、決算は収支計算書ならびに事業活動計算書と貸借対照表を掲載します。

## 2010年度 事業報告

2010年度は職員が利用者の預かり金等を着服するという利用者、家族、地域の信頼を損なう事件がありました。

このことは、サンフレンズが理念として掲げる人権尊重、また高齢者の生活を守り、人権を守っていく社会福祉法人として絶対あってはならない人権侵害そのものでした。

管理職を始め、組織全体の責任と運営のあり方、人権尊重を全うしていく体制がとられているのかどうかの根本的な問題として、サンフレンズが多年にわたり信頼回復に向けて正していかなければなりません。

何故、こうした不祥事が起きたのか、各事業所の職員会議や監督職を交えた拡大管理職会議、オンブズマン委員会等で話し合いをしてきました。「管理職の管理業務の再考」「職員モラルの再考」「職員同士が互いの業務を把握していない体制」「職員の変化に気づいてあげる環境がない」「利用者と1対1の状況で自分が黙っていれば、知られない中で仕事をしていることを自覚」「福祉施設だからなのか金銭管理が杜撰」「働く職員全てが尊重している、されている、仲間として高めあうとい

う意識を持つ環境ではない」等多くの意見が出されました。組織、職員全体、利用者、家族、地域の方とともに一から考え直していかななくてはならない大きな課題です。＜絶えざる人権意識をもつ組織づくり＞＜利用者、職員等が尊重しあう環境づくり＞＜管理・組織体制の見直し＞＜一人業務ではないチーム業務への再編成＞＜第三者のチェック体制の仕組みづくり＞等の検討を重ねていきます。

2010年度は経営面の安定と人材育成に重点を置いてきました。

法人全体の安定経営を基に、新たな福祉ニーズに 대응していく事業の計画的推進のために「予算・経営委員会」「事業計画委員会」「人材育成委員会」「人権擁護委員会」を発足しました。（下記に活動状況をまとめています）

居宅介護支援事業所は和田ふれあいの家と松ノ木ふれあいの家に併設していた居宅介護支援事業所を統合し、新高円寺に事務所を構え運営を開始しました。ケース記録等書式の統一等課題を2011年度の永福ふれあいの家と和泉ふれあいの家の統合に活かしていきます。

## 1. 経営の安定化

全事業所の努力により、利用者サービスの質を落とすことなく前年度を僅かながら上回る実績を残すことができました。日々の業績管理や経費節減等、法人全体で問題意識をもち、取り組んできた成果の現われと思われれます。

支出に関しては、これまでリース等事業所ごとの契約だったものを、法人一括にするなどして経費の節減に努めました。

### (1) 特養サンフレンズ善福寺の経営の建て直し

特にサンフレンズ善福寺は、人材派遣を止めるなど経費節減に努めたことで改善されつつあります。人件費の支出が抑えられたものの、利用者の心身の重度化に対しては、さらに職員の手が必要になってきています。結果としては、法人全体の経営の安定化につながらず、さらに改善策を探りながら経営の建て直しを図るとともに、法人のめざすサービス提供に努めてまいります。

### (2) 予算・経営委員会の設置

予算の骨子を作成する計画でしたが、中・長期的財政収支の見通しが立てられず、委員会が機能するに至っていません。収入、支出と具体的な改善策を検討することから始め、その上で中・長期的財政収支の見通し、計画と丁寧に段階を踏んだ対策を講じていきます。

### (3) 事業計画委員会の設置

事業計画作成方法と内容について見直しをしましたが、事業計画作成の手順を整えることで終わりました。理事長・理事→運営会議→管理職会議の討議の流れと職員からの意見の吸い上げの流れの形を作りましたが、理念の実現、予算と一体となった事業計画、単年度のビジョン等、課題を残しています。

(2)(3)ともに何度か委員会を開催しましたが、中長期の財政計画やビジョンを打ち出すまでに至っていません。2011年度は、理事や評議員、職員の参加も得ながら取り組みます。

## 2. 人材育成

### (1) 人材育成（研修）計画の作成（人材育成委員会）

2010年度は法人の人材育成の考え方を示し、一般職員から管理職に至るまでの階層別のキャリアパスを作成しました。管理部門ではなく新たにより専門性を高めていく「専門職リーダー」のキャリアパスを作成しました。

包括的人材育成計画の骨格を作成しましたが、

2011年度に継続します。

### (2) 人権擁護委員会（倫理綱領の作成）

倫理綱領の作成にあたっては最初から理事・評議員が加わり討議を重ね、常勤職員のみならず非常勤職員や理事、評議員、ボランティアからの自由記述を大事にし、アンケートを集計しています。

### (3) サンフレンズ創設者との勉強会

2010年度はサンフレンズの創設者を交えた勉強会を行いました。これまでも創設者を講師として、職員の採用前研修に組み込んできましたが、今後は単発ではなく継続的な勉強会として位置付けていきます。

## 3. 地域との協働

### (1) 地域への「恩送り」事業

ちょっとした困りごとのニーズに、区民同士のネットワークを利用して課題を解決する仕組み、対象、担い手、料金、他事業所の運営状況、事業開始までのスケジュールなどについて、民生委員、杉並区社協、地域の方々と検討を重ねてきました。

対象を高齢者に限定せず、「困ったときのS・O・S 地域で恩送り」を試行事業として2011年度立ち上げます。



## 2011年度 事業計画

2010年度は事業報告に掲載したとおり、職員が利用者の預かり金等を着服するという利用者、家族、地域の信頼を損なう事件がありました。

何故、こうした不祥事が起きたのか、理事会、職員会議やオンブズマン委員会等で出された意見をもとに、管理・組織体制の見直し、一人業務ではないチーム業務への再編成、第三者のチェック体制の仕組みづくりの検討を重ねていきます。

また一人ひとりの業務が過重になっていないか、互いが尊重しあえる環境になっているか等の職場環境の点検と職員の相談体制の構築、職員の継続的な倫理研修、ストレスマネジメントの研修を実施していきます。

利用者の預かり金の着服という点だけでなく、日常気づかずにいるかも知れない人権侵害の洗い出しを全事業所職員、利用者、家族、ボランティア、地域の方々も含め行い、倫理綱領の作成を始めとしたサンフレンズの再出発の年としていきます。

2010年度、法人全体の安定経営を基に、新たな福祉ニーズに答えていく事業の計画的推進のために発足した「予算・経営委員会」「事業計画委員会」「人材育成委員会」「人権擁護委員会」は、骨子を作成した委員会もありますが、具体的展開に至っていません。全ての委員会がサンフレンズの理念に繋がるべく、2011年度は一つひとつ具現化していきます。

地域のニーズに根差した「困ったときのSOS地域で恩送り」事業の開始、入居施設はさらなる地域の拠点としての役割を、在宅サービス部門は地域で最後まで暮らし続けられる支援体制を強化していきます。

### 1. 運営面 理念の実現をめざして

#### (1) 管理・組織体制の見直し

##### ①管理・組織体制の見直し

金銭管理については責任、役割、業務の分担を明確化し実践していますが、さらにリスクを含む管理面からサービス提供、地域福祉活動に至るまで機能していく組織体制に整備していきます。またサービス提供や運営面の討議に重点を置く会議等、下記の点について見直します。

- ・ 統括、管理職の役割・責任、職員全体の責任と役割分担の明確化
- ・ チーム業務への組織再編成
- ・ 各種会議・連絡会・委員会のあり方

##### ②倫理綱領の作成

倫理綱領の作成にあたっては常勤職員のみならず非常勤職員や理事、評議員、ボランティアからのアンケートを人権擁護委員会が集計しています。今後も利用者、家族、職員、地域の方々と意見を重ねながら作成していきます。その作成過程で育まれる倫理観、人権意識を倫理綱領の基礎に据えていきます。

##### ③人権尊重の具現化

職員の言動に対してのクレームや気づかないでいる人権侵害を洗い出しながら、利用者・家族・ボランティア・来客・業者・近隣に対して、また職員間、上司と職員間が互いに尊重し合える環境になっているか等、全ての人と人との関係における言葉使い、姿勢、介助を点検し正していきます。

#### (2) 地域福祉の構築

##### ①「困ったときのSOS 地域で恩送り」事業の試行開始

2010年度に検討を重ねてきた、「恩送り」事業を1年間試行事業として開始し、サンフレンズのボランティアの協力を得ながら、配食サービスとの連携や杉並区の「ひとり暮らし高齢者の見守りネットワークの充実」に繋がります。

#### (3) 人材育成

##### ①研修プログラムの体系化、職員育成等のシステム化

2010年度は法人のキャリアパスを作成しました。2011年度は研修プログラムの体系化と包括的人材育成（マップ）システムを構築します。

##### ②サンフレンズ創設者との勉強会

2010年度はサンフレンズの創設者を交えた勉強会を行いました。2011年度はさらにテーマを設け地域に開かれた勉強会を重ねます。

### ③職員の働きやすい環境づくり

#### ・ 職員の相談体制

利用者からの要望や苦情についてはオンブズマンシステムがありますが、職員の悩みや相談については体制が整っていません。産業カウンセラーがメンタル面の相談を、人権擁護委員会が職場環境の悩み等に応じる仕組みを整えます。

#### ・ 介護・子育て環境

職員がサンフレンズで働きながら、人生設計をしていけるような環境づくりを目指します。職員によるプロジェクトチームを結成し、介護・子育て環境整備案を検討します。

## 2. 経営の長期安定化をめざして

法人の経営は決して安定しているとは言えず、事業活動収支計算書の収支はプラスですが、毎年2,000万円以上の償還金が生じています。

現場においては、管理職のみならず一般職員も経営について不安を抱いております。利用者家族からも心配の声をいただいております。そこで、2年前より収入増・支出削減（利用者への負担増や職員の人件費の検討は回避）に取り組みました。

その結果、一定の成果はみられましたが、この改善だけでは経営の長期安定に結びつくものではありません。今後、法人が利用者サービスの質を下げずにどのようにして運営を維持し、経営を安定させるか、法人として具体的な見直しについて検討する一年にします。

### (1) 収入の増加

次回の介護報酬の見直しは2012年度であり、その動向に注目しつつ、各事業所での体制に基づく利用料および各種加算等について検討します。

また、国の基準額でスタートした特別養護老人ホームサンフレンズ善福寺のホテルコストや食費については、開設後一度も見直しをしていません。

上井草園では個室と多床室（4人部屋）のホテルコストが同額のままとなっています。

これら、利用料等については、利用者・家族からの意見を聞く機会を設けながら、また、都内の特別養護老人ホームの利用料等を参考にしながら検討します。

### (2) 支出の抑制

法人では、これまで事業所ごとの契約だったものを、法人一括にするなどして経費の節減に努めてきました。委託契約していた送迎についてもすべて自主運営に切り替えました。また、光熱水費等についても無駄遣いをなくしてきました。今後も経費節減の可能なものについては、徹底的に取り組んでまいります。

また、人件費については、介護報酬の減額が続く中、2005年度に見直し後、まったく検討の対象にはしていませんでした。

まずは、職員の超過勤務時間増に伴い、超過勤務手当が増えており、このことは職員の業務過多の傾向もあるので、この問題の解決に取り組みます。そして、今後、経営の長期安定化を図るためには、人件費も「見直し・検討の対象」に含め、支出の抑制に努めることが必要と思われます。このことは、職員全体にかかる問題であり、運営会議や管理職会議だけではなく、職員からの意見を聞く機会を設けながら検討を重ねてまいります。

### (3) 中・長期計画

経営の安定化をめざすため、理事会・評議員会はもとより、運営会議および管理職会議、予算・経営委員会および事業計画委員会等で具体的な改善策を検討し、中・長期計画を作成します。上記(1)および(2)を見直し、具体的な優先順位を決定します。また、前述の事業所ごとの大規模修繕についても年次計画を立てて取り組まなければなりません。さらには、今後の法人の新たな戦略（新規事業）を踏まえたうえでの経営的な中・長期計画を作成します。

# 2010年度 決算

## 収支計算書

(自)平成22年4月1日

(至)平成23年3月31日

法人名 社会福祉法人 サンフレンズ

(単位:円)

科目	予算	決算	差異
経常活動による収支			
経常活動による収支(収入)			
介護福祉施設介護料収入	360,211,000	361,617,191	△ 1,406,191
居宅介護料収入	699,166,000	698,407,662	758,338
(介護特例収入)	629,315,000	628,498,461	816,539
(利用者負担金収入)	69,851,000	69,909,201	△ 58,201
居宅介護支援介護料収入	84,531,000	82,978,840	1,552,160
利用者等利用料収入	172,954,000	175,484,249	△ 2,530,249
その他の事業収入	190,809,000	189,910,835	898,165
寄付金収入	2,570,000	3,809,700	△ 1,239,700
借入金利息補助金収入	2,448,000	2,448,000	0
受取利息配当金収入	1,115,000	1,056,450	58,550
事業外収入	7,270,000	8,511,863	△ 1,241,863
雑収入	1,104,000	5,664,627	△ 4,560,627
経常活動収入計(1)	1,522,178,000	1,529,889,417	△ 7,711,417
経常活動による収支(支出)			
人件費支出	1,014,776,000	1,026,987,645	△ 12,211,645
経費支出	447,005,000	447,309,458	△ 304,458
(直接介護支出)	203,160,000	204,998,037	△ 1,838,037
(一般管理支出)	243,845,000	242,311,421	1,533,579
利用者負担軽減額	662,000	589,181	72,819
徴収不能額	0	0	0
借入金利息支出	8,015,000	8,013,515	1,485
事業外支出	4,494,000	4,389,451	104,549
雑支出	0	0	0
経常活動支出計(2)	1,474,952,000	1,487,289,250	△ 12,337,250
経常活動資金収支差額(3=1-2)	47,226,000	42,600,167	4,625,833
施設整備等による収支			
施設整備等による収支(収入)			
設備資金借入金収入	0	0	0
施設整備等補助金収入	0	0	0
施設整備等寄付金収入	0	0	0
固定資産売却収入	0	1,535,620	△ 1,535,620
施設整備等収入計(4)	0	1,535,620	△ 1,535,620
施設整備等による収支(支出)			
固定資産取得支出	19,321,000	11,511,834	7,809,166
施設整備等支出計(5)	19,321,000	11,511,834	7,809,166
施設整備等資金収支差額(6=4-5)	△ 19,321,000	△ 9,976,214	△ 9,344,786
財務活動による収支			
財務活動による収支(収入)			
長期運営資金借入金収入	0	0	0
投資有価証券売却収入	0	0	0
設備資金借入金元金償還補助金収入	3,578,000	3,578,000	0
設備資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0
長期運営資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0
積立預金取崩収入	0	0	0
他会計区分繰入金収入	0	0	0
会計区分外繰入金収入	2,500,000	2,174,072	325,928
その他の収入	0	0	0
財務活動等収入(7)	6,078,000	5,752,072	325,928
財務活動による収支(支出)			
設備資金借入金元金償還金支出	23,710,000	23,710,000	0
長期運営資金借入金元金償還金支出	0	0	0
投資有価証券取得支出	0	0	0
積立預金支出	0	0	0
他会計区分繰入金支出	0	0	0
会計区分外繰入金支出	2,500,000	2,174,072	325,928
その他の支出	1,507,000	1,462,038	44,962
財務活動等支出(8)	27,717,000	27,346,110	370,890
財務活動資金収支差額(9=7-8)	△ 21,639,000	△ 21,594,038	△ 44,962
予備費(10)	2,704,000	0	2,704,000
当期資金収支差額合計(11=3+6+9-10)	3,562,000	11,029,915	△ 7,467,915
前期末支払資金残高(12)	613,741,000	613,741,423	△ 423
当期末支払資金残高(13=11+12)	617,303,000	624,771,338	△ 7,468,338

## 事業活動計算書

(自)平成22年4月1日

(至)平成23年3月31日

法人名 社会福祉法人 サンフレンズ

(単位:円)

科目	前年度	当年度	増減
事業活動収支の部			
事業活動収支の部(収入)			
介護福祉施設介護料収入	358,015,195	361,617,191	3,601,996
居宅介護料収入	700,344,488	698,407,662	△ 1,936,826
(介護特例収入)	629,762,971	628,498,461	△ 1,264,510
(利用者負担金収入)	70,581,517	69,909,201	△ 672,316
居宅介護支援介護料収入	75,490,657	82,978,840	7,488,183
利用者等利用料収入	179,609,982	175,484,249	△ 4,125,733
その他の事業収入	160,282,741	189,940,835	29,658,094
その他の収入	124,060	529,660	405,600
国庫補助金等特別積立金取崩額	13,445,901	13,152,148	△ 293,753
事業活動収入計(1)	1,487,313,024	1,522,080,585	34,767,561
事業活動収支の部(支出)			
人件費	924,148,493	987,672,865	63,524,372
経費	478,096,934	447,309,458	△ 30,787,476
(直接介護費)	202,301,540	204,998,037	2,696,497
(一般管理費)	275,795,394	242,311,421	△ 33,483,973
利用者負担軽減額	583,768	589,181	5,413
減価償却費	44,062,706	39,966,563	△ 4,096,143
徴収不能額	34,407	0	△ 34,407
引当金繰入	35,105,262	37,516,318	2,411,056
事業活動支出計(2)	1,482,031,570	1,513,054,385	31,022,815
事業活動収支差額(3=1-2)	5,281,454	9,026,200	3,744,746
事業活動外収支の部			
事業活動外収支の部(収入)			
借入金利息補助金収入	2,592,000	2,448,000	△ 144,000
受取利息配当金	1,232,179	1,056,450	△ 175,729
有価証券売却益	0	0	0
寄付金収入	2,920,905	3,809,700	888,795
その他の事業活動外収入	8,330,437	8,511,863	181,426
雑収入	1,437,721	1,105,327	△ 332,394
事業活動外収入計(4)	16,513,242	16,931,340	418,098
事業活動外収支の部(支出)			
借入金利息	8,517,785	8,013,515	△ 504,270
有価証券売却損	0	0	0
資産評価損	0	0	0
その他の事業活動外支出	4,629,633	4,389,451	△ 240,182
雑損失	0	0	0
事業活動外支出計(5)	13,147,418	12,402,966	△ 744,452
事業活動外収支差額(6=4-5)	3,365,824	4,528,374	1,162,550
経常収支差額(7=3+6)	8,647,278	13,554,574	4,907,296
特別収支の部			
特別収支の部(収入)			
施設整備等補助金収入	3,578,000	3,578,000	0
施設整備等寄付金収入	0	0	0
固定資産受贈額	0	0	0
固定資産売却益	0	1,535,618	1,535,618
国庫補助金等特別積立金取崩額	0	0	0
他会計区分繰入金収入	0	2	2
会計区分外繰入金収入	0	2,174,072	2,174,072
その他の特別収入	2,362,266	42,553	△ 2,319,713
特別収入計(8)	5,940,266	7,330,245	1,389,979
特別収支の部(支出)			
基本金組入額	0	0	0
国庫補助金等特別積立金繰入額	3,578,000	3,578,000	0
固定資産除売却損	73,016	125,424	52,408
他会計区分繰入金支出	0	2	2
会計区分外繰入金支出	0	2,174,072	2,174,072
その他の特別損失	9,071,982	1,462,038	△ 7,609,944
特別支出計(9)	12,722,998	7,339,536	△ 5,383,462
特別収支差額(10=8-9)	△ 6,782,732	△ 9,291	6,773,441
当期活動収支差額(11=7+10)	1,864,546	13,545,283	11,680,737
前期繰越活動収支差額(12)	745,328,106	747,192,652	1,864,546
次期繰越活動収支差額(13=11+12)	747,192,652	760,737,935	13,545,283

**貸借対照表**  
平成23年 3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
勘 定 科 目	前年度末	当年度末	増 減	勘 定 科 目	前年度末	当年度末	増 減
<b>流 動 資 産</b>	( 697,547,491 )	( 708,537,056 )	( 10,989,565 )	<b>流 動 負 債</b>	( 111,375,127 )	( 113,523,408 )	( 2,148,281 )
現 金 預 金	471,263,743	496,304,441	25,040,698	短期運営資金借入金			
有 価 証 券	56,550	65,250	8,700	未 払 金	78,976,390	80,575,246	1,598,856
未 収 金	223,280,831	209,460,869	△13,819,962	施設整備等未払金			
未 収 補 助 金	305,412	291,658	△13,754	預 り 金	5,558,737	4,377,162	△1,181,575
貯 蔵 品				前 受 金			
立 替 金	227,331	55,141	△172,190	他会計区分借入金			
前 払 金	2,300,984	2,188,422	△112,562	会計区分外借入金			
他会計区分貸付金				仮 受 金			
会計区分外貸付金				賞 与 引 当 金	26,840,000	28,571,000	1,731,000
仮 払 金				その他の流動負債			
その他の流動資産	112,640	171,275	58,635	固 定 負 債			
<b>固 定 資 産</b>	( 1,377,451,765 )	( 1,353,222,356 )	( △24,229,409 )	<b>固 定 負 債</b>	( 437,425,820 )	( 418,066,560 )	( △19,359,260 )
<b>基 本 財 産</b>	( 1,223,723,077 )	( 1,202,372,244 )	( △21,350,833 )	設 備 資 金 借 入 金	397,030,000	373,320,000	△23,710,000
土 地	794,988,600	794,988,600	0	長期運営資金借入金			
建 物	413,734,477	392,383,644	△21,350,833	他会計区分長期借入金			
基本財産特定預金	15,000,000	15,000,000	0	長 期 預 り 金			
				退 職 給 与 引 当 金	40,395,820	44,746,560	4,350,740
				その他の固定負債			
その他の固定資産	( 153,728,688 )	( 150,850,112 )	( △2,878,576 )	<b>負 債 の 部 合 計</b>	548,800,947	531,589,968	△17,210,979
土 地				<b>純 資 産 の 部</b>			
建 物	6,853,244	6,290,899	△562,345	基 本 金	( 15,000,000 )	( 15,000,000 )	( 0 )
構 築 物	15,685,526	14,454,137	△1,231,389	国庫補助金等特別積立金	( 714,092,657 )	( 704,518,509 )	( △9,574,148 )
機 械 及 び 装 置				そ の 他 の 積 立 金	( 49,913,000 )	( 49,913,000 )	( 0 )
車 輛 運 搬 具	15,252,136	12,017,993	△3,234,143	移 行 時 特 別 積 立 金			
器 具 及 び 備 品	21,273,848	19,244,928	△2,028,920	そ の 他 の 積 立 金	49,913,000	49,913,000	0
建 設 仮 勘 定				次 期 繰 越 活 動 収 支 差 額	( 747,192,652 )	( 760,737,935 )	( 13,545,283 )
権 利	358,400	358,400	0	次 期 繰 越 活 動 収 支 差 額	747,192,652	760,737,935	13,545,283
投 資 有 価 証 券				(うち当期活動収支差額)	( 1,864,546 )	( 13,545,283 )	( 11,680,737 )
他会計区分長期貸付金				<b>純 資 産 の 部 合 計</b>	1,526,198,309	1,530,169,444	3,971,135
移行時特別積立預金				<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	2,074,999,256	2,061,759,412	△13,239,844
移行時減価償却特別積立預金							
その他の積立資産	49,913,000	49,913,000	0				
その他の積立預金							
その他の固定資産	44,392,534	48,570,755	4,178,221				
<b>資 産 の 部 合 計</b>	2,074,999,256	2,061,759,412	△13,239,844				

脚注

	前 年 度 末	当 年 度 末
1 減価償却費の累計額	184,384,896 円	225,688,438 円
2 徴収不能引当金の額	729,059 円	1,186,690 円
3 移行時特別積立金の積立不足額	0 円	0 円

2010年度事業報告書・決算書、2011年度事業計画書・予算書の全文は、各事業所に備えてあります。  
いつでも自由に閲覧していただけます。

# 2011年度 予算

(単位:千円)

大区 分科目	中区分科目	2011年度予算	2010年度予算	差異	備考
	経常活動による収支				
	経常活動による収入				
	介護福祉施設介護料収入	375,493	360,211	15,282	
	介護報酬収入(施設)	337,943	324,570	13,373	夜勤職員配置加算通年に
	利用者負担金収入(施設)	37,550	35,641	1,909	夜勤職員配置加算通年に
	居宅介護料収入	720,735	699,166	21,569	
	(介護報酬収入)	648,594	629,315	19,279	
	介護報酬収入(居宅)	596,090	576,544	19,546	
	介護予防報酬収入(居宅)	52,504	52,771	-267	
	(利用者負担金収入)	72,141	69,851	2,290	
	介護負担金収入(居宅)	66,296	63,965	2,331	
	介護予防負担金収入(居宅)	5,845	5,886	-41	
	措置費収入	0	0	0	
	事務費収入	0	0	0	
	事業費収入	0	0	0	
	居宅介護支援介護料収入	99,771	84,531	15,240	
	居宅介護支援介護料収入	85,614	70,374	15,240	
	介護予防支援介護料収入	14,157	14,157	0	
	利用者等利用料収入	176,886	172,954	3,932	
	介護福祉施設利用料収入	8,228	11,541	-3,313	日用品費徴収不可分減
	居宅介護サービス利用料収入	17,456	16,092	1,364	
	食費収入	110,494	104,351	6,143	
	居住費収入	33,159	33,341	-182	
	管理費収入	0	0	0	
	その他の利用料収入	7,549	7,629	-80	
	その他の事業収入	202,052	190,809	11,243	
	補助金収入	28,420	29,884	-1,464	SOS助成金増
	市町村特別事業収入	0	0	0	
	受託収入	173,632	160,925	12,707	ケア受託増 配食祝日分増
	その他の事業収入	0	0	0	
	(介護報酬査定減)	0	0	0	
	寄付金収入	2,570	2,570	0	
	借入利息補助金収入	2,448	2,448	0	善福寺 都福祉保健財団利子補給
	受取利息配当金収入	858	1,115	-257	
	事業外収入	7,270	7,270	0	
	受入研修費収入	1,699	1,699	0	
	職員等給食費収入	5,571	5,571	0	
	雑収入	1,204	1,104	100	SOS事業利用料+100
	経常活動による収入計(1)	1,589,287	1,522,178	67,109	
	経常活動による支出				
	人件費支出	1,058,046	1,014,776	43,270	
	役員報酬	1,167	1,167	0	
	職員俸給	396,460	368,368	28,092	
	職員諸手当	191,029	184,405	6,624	
	非常勤職員給与	353,353	351,766	1,587	SOS事業分含む
	退職金	0	0	0	
	退職共済掛金	10,500	10,371	129	
	法定福利費	105,537	98,699	6,838	
	経費支出	443,433	447,005	-3,572	
	(直接介護支出)	204,984	203,160	1,824	
	給食材料費	99,931	98,640	1,291	配食増加分含む
	介護用品費	13,836	13,836	0	
	教養娯楽費	4,274	4,274	0	
	医薬品費	5,350	5,350	0	
	日用品費	167	167	0	
	被服費	2,504	2,504	0	
	消耗器具備品費	8,874	8,783	91	配食増加分含む
	保健衛生費	4,519	4,519	0	
	車両費	8,866	8,729	137	配食増加分含む
	光熱水費	55,718	55,453	265	配食増加分、SOS事業分含む
	燃料費	0	0	0	配食増加分含む
	本人支給金	0	0	0	配食増加分含む
	葬祭費	0	0	0	配食増加分含む
	協力員活動費	945	905	40	配食増加分含む

(一般管理支出)	238,449	243,845	-5,396	
福利厚生費	3,262	3,262	0	
旅費交通費	1,796	1,796	0	
研修費	2,246	2,226	20	SOS事業分含む
通信運搬費	8,124	7,974	150	SOS事業分含む
事務消耗品費	8,172	7,822	350	SOS事業分含む
印刷製本費	2,847	2,767	80	SOS事業分含む
広報費	149	149	0	
会議費	47	47	0	
修繕費	4,073	4,073	0	
保守料	9,080	9,080	0	
賃借料	15,372	14,640	732	SOS事業分含む
保険料	5,876	5,872	4	SOS事業分含む
渉外費	40	40	0	
諸会費	1,113	1,113	0	
租税公課	139	139	0	
委託費	172,495	179,347	-6,852	人材派遣減-1,000 配食清掃増
雑費	3,618	3,498	120	SOS事業分含む
利用者負担軽減額	662	662	0	
徴収不能額	0	0	0	
借入金利息支出	8,015	8,015	0	
事業外支出	4,494	4,494	0	
職員等給食費	4,494	4,494	0	
その他の事業外支出	0	0	0	
雑支出	0	0	0	
経常活動による支出計(2)	1,514,650	1,474,952	39,698	
経常活動資金収支差額((3)=(1)-(2))	74,637	47,226	27,411	
施設整備等による収支				
施設整備等による収入				
設備資金借入金収入	0	0	0	
施設整備等補助金収入	0	0	0	
施設整備等寄付金収入	0	0	0	
固定資産売却収入	0	0	0	
器具及び備品売却収入	0	0	0	
車両運搬具売却収入	0	0	0	
その他の固定資産売却収入	0	0	0	
施設整備等による収入計(4)	0	0	0	
施設整備等による支出				
固定資産取得支出	34,131	19,321	14,810	
土地取得支出	0	0	0	
建物取得支出	15,000	150	14,850	建物大規模修繕
器具及び備品取得支出	8,941	12,611	-3,670	予算要求項目
車両運搬具取得支出	10,190	6,560	3,630	送迎車3台購入
その他の固定資産取得支出	0	0	0	
固定資産除却・廃棄支出	0	0	0	
施設整備等による支出計(5)	34,131	19,321	14,810	
施設整備等資金収支差額((6)=(4)-(5))	-34,131	-19,321	-14,810	
財務活動による収支				
財務活動による収入				
長期運営資金借入金収入	0	0	0	
投資有価証券売却収入	0	0	0	
設備資金借入金元金償還補助金収入	3,578	3,578	0	善福寺 区元金補助
設備資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0	
長期運営資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0	
積立預金取崩収入	0	0	0	
移行時特別積立預金取崩収入	0	0	0	
その他の積立預金取崩収入	0	0	0	
他会計区分繰入金収入	0	0	0	
他会計区分長期借入金収入	0	0	0	
他会計区分長期貸付金回収金収入	0	0	0	
会計区分外繰入金収入	0	2,500	-2,500	本部へ繰入
その他の収入	0	0	0	
財務活動による収入計(7)	3,578	6,078	-2,500	
財務活動による支出				
設備資金借入金元金償還金支出	23,710	23,710	0	善福寺 医療機構13150 西武信金10560
長期運営資金借入金元金償還金支出	0	0	0	
投資有価証券取得支出	0	0	0	
積立預金支出	0	0	0	
他会計区分繰入金支出	0	0	0	
他会計区分長期貸付金支出	0	0	0	
他会計区分長期借入金償還金支出	0	0	0	
会計区分外繰入金支出	0	2,500	-2,500	本部へ繰入
その他の支出	0	1,507	-1,507	過年度介護報酬修正
財務活動による支出計(8)	23,710	27,717	-4,007	
財務活動資金収支差額((9)=(7)-(8))	-20,132	-21,639	1,507	
予備費(10)	2,704	2,704	0	
当期資金収支差額合計((11)=(3)+(6)+(9)-(10))	17,670	3,562	14,108	
前期末支払資金残高(12)	617,303	613,741	3,562	



# 困ったときのSOS 地域で恩送り事業スタート

皆さんは、「恩送り」という言葉をご存知でしょうか。誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別のの人に送るという意味です。サンフレンズはこれまでの間、多くの皆様に支えていただきました。その感謝の気持ちを「恩送り」という精神で、少しでも地域にお返ししたいと考え、4月1日より事業を開始しました。



<私たちが迅速に出向いて支援します>

## ちょっと困っている方へ

私たちの日常生活では、「ちょっと困ったなあ」と感じる場合があります。たとえば、高いところの電球が切れてしまい、椅子に乗って交換しようとするけれど届かずに「困ったなあ」、また、買い物に行かなければならないのに、風邪などで体調が悪く寝込んでいるときに「困ったなあ」、なんてことは誰にでもあります。そんなときに「応援隊」がお手伝いします。困ったときのSOSは「かゆいところに手が届く」サービスです。

## ちょっと手伝ってもいい方へ

ちょっと困っている方に、ちょっとだけお手伝いをする、それが応援隊です。向こう三軒両隣、応援隊は地域の皆さんがちょっとだけお手伝いをしていただくボランティアグループです。サンフ

レンズは、「お互いさま」の気持ちをもつ皆さんと助け合えるシステムを地域のなかでつくっていきたいと考えています。あるときは困っている立場でサービスを受け、また、あるときは応援隊として手伝う立場にもなります。

## 行きつけの場所として

この事業は、ちょっと困っている方への応援のほか、地域の皆さんが気軽に集える場も設けました。お一人でも、お子さんやお孫さんを連れてもかまいません。一杯のお茶から世代を超えた交流を深めていただければ、そんな思いをもっています。すでに「ふれあいサロン」と称して、70代から90代の方々が月に2度ほど集まってはコーヒータイムを楽しんでいます。是非、皆さんもお立ち寄りください。



<世代を超えた憩いの場です>

## まずは登録を

私たちは、「誰かを支え」「誰かに支えられ」ながら暮らしています。ちょっと困っている方、ちょっと手伝ってもいい方、まずはご連絡ください。ともに支えあう地域づくりに参加しませんか。

事業所：困ったときのSOSセンター

場 所：杉並区上井草 2-35-2 朗栄荘 205 号

営業日：月曜日～金曜日（9時～17時）

利用料：10分 100円～で1回 60分位まで

※今年度のサービス提供地域は、上井草全域と井草3～5丁目を対象としています。

**電話：03-5303-4246**

ふれあいサロン上井草：第2・第4金曜日

（10時～12時）

# 管理職紹介

4月1日付の人事異動で就任しました管理職をご紹介します

## 特養統括施設長 上井草園園長

つちや としひこ  
土屋 俊彦



平成9年6月上井草園が開設したとき、生活相談員として75名のご利用者の皆様の入所のお手伝いをさせていただきました。その後は、長らく在宅介護および相談業務を中心とした業務に取り組んでまいりました。今後も今まで同様、法人の理念を強く抱き、これまでの経験を活かして誠心誠意取り組んでまいります。何卒宜しくお願いいたします。

## 地域包括支援センター統括所長 ケア24上井草所長

さの はるき  
佐野 晴起



この4月から杉並区地域包括支援センターケア24上井草のセンター長になりました佐野晴起です。これまで他県の福祉法人で相談員を中心に様々な事業の業務に携わってきました。しかし、杉並区も地域包括支援センターも初めてとなります。新参者ですので、謙虚に学びながら、一日も早く戦力として貢献したいと思っています。

## サンフレンズ上井草支援センター所長

やまもと さとし  
山本 智



就任してまず嬉しかったことは、毎朝の地域清掃とチームワークの良さでした。

ケアマネジメントは人々が背負っている重みを少しでも軽くするための考え方であり方法だと思えます。

自らを問い可能性を感じとりながら、このやりがいのあるソーシャルワークを引き継ぎたいと思えます。

## 松ノ木ふれあいの家所長

ささがわ みゆき  
笹川 美由紀



松ノ木ふれあいの家はプログラムが充実していると評判を聞いています。

これまで皆様と松ノ木職員と一緒に作ってきた暖かな関わりがいつそう深まるように、また皆様が安心して、楽しみに通って頂ける松ノ木ふれあいの家であり続けるように、わが故郷、新潟県民の粘り強さで務めて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



# サンフレンズ リレーコラム

今回はサンフレンズ訪問介護センター所長の亀村実千代から、訪問介護事業の実態やご利用者から寄せられる意見を通して、日頃感じていることをお伝えします。

## 地域の中で暮らしたい

前号のサンフレンズリレーコラムでは、専門職のサポートが入ることにご利用者と家族が地域の中で特別な存在となり、近所付き合いが遠のくことがあるという指摘がありました。

確かに訪問介護のサービスを開始すると、地域住民に「これで安心」とヘルパーに全面的に委ねられてしまうことがあります。介護保険の制度上、地域住民のお世話になっていた身の回りの援助をヘルパーが代わって行うことは可能です。しかし、慣れ親しんできた地域住民との絆は保っていただきたいと思います。特に、現状の介護保険制度に頼るだけでは老後の生活を安心して過ごすことができない現実を考えると、社会資源として地域住民の手助けを位置づけることは重要です。

一般的に「住み慣れた地域、住まいでずっと暮らしたい」と願う高齢者は多いでしょう。ご利用者は、「親族にあまり負担をかけずにサービスを利用して生活したい」と考え、また家族は、「家族とサービスとの連携で生活を支えたい」と思っています。在宅サービスで最も多く利用されるのは訪問介護です。しかし、現在、行政の財政事情により身体介護及び生活援助サービスの時間が短縮化され、1.5時間未満の利用が全体の9割以上、そのうちの1時間未満が7割を占めています。介護サービス全体を見ると、高齢者の増加とそれに比例し重度の要介護者が増えているにもかかわらず、ここ2～3年訪問介護の利用は増えていません。

## 情報コーナー…………… 杉並区高齢者外出支援サービス ……………

閉じこもり防止、社会参加の促しを目的とし、介護保険では対応できない散歩、通院等にヘルパーが付き添います。対象は杉並区在住の65歳以上で介護度が要支援2以上の方です。なお、費用負担があります。

【お問い合わせ先】 ケア24 上井草 TEL03-3396-0024

ケア24 善福寺 TEL03-5311-1024

またはお近くのケア24、担当のケアマネジャーでも申請できます。

## 訪問介護から見る厳しい在宅生活

その理由はご利用者の声からも明らかです。要介護度の軽いご利用者の不満は、主に生活援助についてです。例えば「あれはダメ、これはダメでやってもらえることが少ない」「調理をしてもらえない」「サービス時間や回数が減らされた」等。一方、要介護度の高いご利用者は「夜間・休日は家族で対応せざるを得ない」「ヘルパーの指名が出来ない」「必要なサービスを受けたいが費用負担が大きい」等、費用負担に関わる苦情も多く、ご利用者が困っている様子が伺えます。このように、ご利用者や家族はサービス事業者に生活を維持していくための困りごと全般の援助を望む傾向が強いのです。

しかし現実では、ご利用者、サービス事業者ともに自立支援の概念に沿って実行することが難しく、行政の制度運用が変わるたびに対応を迫られます。そして、サービス時間の短縮は、ヘルパーの職場環境の悪化によるヘルパー不足という悪循環をももたらしました。制度導入時のうたい文句、「誰でも望む時間にサービスを受けられる訪問介護」とは程遠い実態です。認知症や要介護度の高いご利用者は費用負担が嵩み、家族介護なくしては望むような在宅生活の維持はできなくなりました。その結果、入所、あるいは家族に引き取られる高齢者が増えた、と考えられます。

今後、高齢者はますます増え、身寄りのない高齢者、単身で介護にあたらなければならない家族も増えていくと予想されます。当センターでは、より安心な在宅生活のため、一つの手段として「緊急、夜間対応」を検討しています。これからもサービス事業者としての模索はまだまだ続きます。

## 法人への寄附金および物品等を賜り、厚く御礼を申し上げます。

2011年1月1日から4月30日までにご寄附をいただいた順に掲載しております。

《寄附金》寒河江昭様・白梅学園短期大学様・藤井諭子様・金子功子様・山田みち様・佐野英司様・NPO 法人新しいホームをつくる会様・堀淳子様・大熊明子様・小林茂雄様・杉並・老後を良くする会様・松井茂夫様・サンフレンズ後援会様・加藤紀子様・松尾廣高様・匿名希望5名  
(寄附金のお預り後、2週間以内に本部事務局より領収書を郵送いたします。届かない場合はお手数ですが、本部事務局までご連絡をお願いいたします。)

《物品等》結城千寿様・金子功子様・杉江美代子様・松尾芳子様・松永真知子様・健康体操宮本グループ様・青木福治様・唐木千恵様・佐藤治子様・岡崎秀州様・山口慎二様・小林茂雄様・大塚佳世子様・小林茂雄様・天野真弓様・井出康子様・後木淑江様・大塚佳世子様・栗原智様・林里音様・匿名希望15名

## ボランティア紹介 第46回

手工芸をみんなで楽しく



＜中央：長沼三千代さん

左：川名真由美さん 右：小坂悦子さん＞

今回は、永福ふれあいの家で毎週火曜日、午前中に手工芸クラブの活動をされている長沼三千代さん、小坂悦子さん、川名真由美さんの紹介です。

永福ふれあいの家創立時からボランティアに来ている長沼さん、杉並区の広報を見て来てくれたことになった川名さん、お友達を通じて来てくれた小坂さんは、最初ご利用者のお話し相手として活動を始めました。

そしてそれぞれ、編み物や貼り絵をしているご利用者に「一緒にやりましょう。」と声をかけられ、作品づくりのお手伝いをしていたことがきっかけで、手工芸クラブが始まりました。現在では11名のご利用者がメンバーとして参加しています。

手工芸クラブでは、折り紙やフェルトなどを使ったクリスマスリースやひな飾りなど、その季節に合った作品を制作しています。また、バザーや施設公開に出品する作品等もつくりま

す。針を使った細かい作品にも取り組んでいましたが、現在はご利用者が楽しみながら活動を続けられることを目的とした作品づくりを心掛けています。

長沼さん、小坂さん、川名さんは、ご利用者が一人では難しい作業を必要に応じて手伝ったり、作品が出来あがった時は、ご利用者と一緒に喜んだりします。

長沼さんたちに会うことを楽しみに手工芸クラブに参加するご利用者も多く、活動中は会話や笑顔が絶えません。3人の素敵な活動から、ご利用者も職員もたくさんの元気をいただいています。

これからも、この手工芸クラブの活動を大切にしていきたいと思



＜フェルトを使ってひな飾りを制作中＞

サンフレンズだより・ホームページへのご意見・ご感想をお寄せください

本部事務局 電話 : 03(3394)9833

FAX : 03(3394)9834

担当 : 河野・宮鍋

ホームページアドレス

<http://www.3friends.or.jp>

E-mail アドレス

[kamiigusa@3friends.or.jp](mailto:kamiigusa@3friends.or.jp)